

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		スーパー（経 理担当）	販売量の動き	・去年は大雪が降ったため売上が落ちたが、今年は暖冬で雪が少ないので、その分売上が良い。
		スーパー（管 理担当）	お客様の様子	・3か月前と比べると明らかに良いが、12月とは思えない静けさである。客単価が若干低いのも気になる要素である。
		コンビニ（エ リア担当）	来客数の動き	・売上の3か月前と比較し1.7%改善し、更に前年比をクリアしている。内容を見ると、来客数が3か月前と比較すると98.7%から103.0%へと増加。客単価は102.8%から100.8%へと低下しているものの、前年は104.4%とクリアしている。
		衣料品専門店 （販売促進担 当）	販売量の動き	・売上、来客数ともに増加している。 ・メンズ商品の動きが良い。
		自動車備品販 売店（経営 者）	販売量の動き	・暖冬の影響で期待した冬期商品の動きは良くないが、ナビゲーション等の高額品の動きは昨年同時期及び3か月前の水準から比較すると良くなっている。天候の影響は致し方ない要因なので、全体の動きは良くなっていると判断している。
		観光型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・12月ということもあるが、数か月前に比べると来客数、販売量の動きが上向きになってきている。
		都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・レストラン、宴会とも忘年会の利用件数が昨年より増加している。宿泊客に関しては団体旅行が減少しているが、家族旅行が増加している。
	テーマパーク （業務担当）	来客数の動き	・今月はクリスマス関連イベントを実施し、来客数も増加し、その関連として売上が伸びている。	
	変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・クリスマス商戦を期待していたが、クリスマス前と後で、ほとんど変化がみられない。
		百貨店（購買 担当）	お客様の様子	・婦人服においては、暖冬のせいかこの時期に売れるはずのコート類の動きが鈍くなっている。しかしヤング売場では、リアルファなど上質素材を使っているがリーズナブルという理由からジャケット・コートなどの売上が伸びてきている。高額品を扱っているミセス売場では、先月に引き続き売上が低迷している。 ・食品売場では、年末年始を手軽に済ませようという家庭が増えてきたのか、1万5千円から2万円の
		百貨店（売場 担当）	販売量の動き	・11月は例年と比べて90%の売上であったが、12月は前年実績を確保できる見込みである。12月らしいクリスマスのイベントにおいて特選ギフト、特にハンドバッグなどの売上が好調に推移した。
		百貨店（売場 担当）	お客様の様子	・今月中旬までの気温の高さで防寒類を中心とした衣類関係の売上が伸びず、中旬から盛り返したものの全体としては例年の売上には及ばなかった。
		百貨店（売場 担当）	お客様の様子	・今月はミセス商品の動きが良かったが、ブーツの動きが悪く、今月も苦戦している。
スーパー（店 長）		単価の動き	・客数は前年をクリアするも、12月のお歳暮商品の動きは点数・単価とも落ち、暖冬のため野菜を始め魚、肉など鍋関係の動きも非常に悪く、相変わらず客単価は96%と低迷している。	
スーパー（店 長）	単価の動き	・客数は前年と変わらないが、客単価が減少傾向である。非常に厳しい状況である。		
コンビニ（エ リア担当）	来客数の動き	・来店客数は前年並みを維持しているが、上向き感はない。ただ、必需品以外の嗜好関連品についても堅調であり、景気の横ばい感はある。		
衣料品専門店 （店長）	単価の動き	・12月の初めは暖冬のため、スーツなどの必要な物以外の売上は少なかったが、中旬移行は気温も下がり、コートなどの売行きが上向いている。		

	家電量販店 (副店長)	お客様の様子	・思い切って高額商品を一括購入する人、最低限の物をいくつかに分けて購入する人、必要最低限の物を一つだけ購入する人、というように最近の消費者の購入動向は分類される。購入する金はあるが思い切れない状態である。
	乗用車販売店 (販売担当)	お客様の様子	・車の代替サイクルが変化しており、長く乗りつづす顧客が増えてきている。消費に対する意欲が少な
	乗用車販売店 (サービス担当)	販売量の動き	・来店数は増加しているが、新車の販売数、修理上の在庫量は減少している。
	その他専門店 [カメラ] (地域ブロック)	来客数の動き	・商品構成の変更もあり、総売上は前年並みとなっている店舗もあるが、来店客数は前年割れが続いている。
	一般レストラン (店長)	単価の動き	・忘年宴会予約の客単価かが下がっている。チェーン店では低単価のコースが多いので組数は増えているが、単価が下がっている分売上の伸びが鈍い。
	その他飲食 [ハンバーガー] (経営者)	単価の動き	・ディスカウントの安い商品ばかりに販売が集中しており、客単価は下がっている。大きな販促費用を費やさなければ売上が伸びない状況が続いており、利益を上げるのは非常に難しい。
	テーマパーク (財務担当)	来客数の動き	・来客数は少ないが、宴会が好調であるため全体としては変わらない。
	テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・暖冬の影響で、入園者数は昨年より多いが、景気が回復したとは判断しにくい。
	美容室(経営者)	単価の動き	・12月の需要期にもかかわらず、客単価が伸びない。安い商品にお客が流れている。
	設計事務所 (経営者)	お客様の様子	・民間の大型物件の建築物件数が少ない。
やや悪く なっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・今月に3店舗の閉店・移転があり、いっそう商店街の空洞化が進んでいる。それに伴い、商店街を行き来する通行量も減少気味である。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・災害による野菜の高騰など不安材料が多くみられるため、先行き不透明と感じている人が多い。
	百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・暖冬の影響もあるが、コートを中心とした防寒衣料は約20%減の推移となっている。歳暮・クリスマスギフトに関しても単価ダウンが顕著にみられる。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・来客数が例年を下回っており、先行きが不透明な部分に加え、暖冬のため防寒衣料の売上が伸び悩んでいる。
	スーパー(店長)	単価の動き	・1人当たりの買上点数が減少している。また、競合店もかなりディスカウントをしているため、状況はかなり厳しい。
	スーパー(店長)	お客様の様子	・新規大型店の出店や競合店の活性化により、売上点数、一品単価が低下している。
	スーパー(店長)	単価の動き	・客数は横ばいであるが、客単価や一品単価が減少している。この事から客が必要な物以外を買わないという状況にあると判断できる。
	スーパー(店舗運営担当)	販売量の動き	・先月同様、客数は前年比100%を維持しているが、売上は前年比95~96%を推移している。温暖化現象の影響等を受け、鍋材料の売行きが鈍く、買上点数が伸びないのが原因であると考えられる。
	スーパー(店員)	単価の動き	・天候が暖かいため冬物の売行きが悪い。また野菜の高値が解消され単価が伸びない。
	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・12月に入って一段と来店数が減っている。例年この時期の商店街はクリスマスの飾りのため華やかさもあり、通行人も多く来店も多いが、今年は少な
	衣料品専門店 (地域ブロック長)	来客数の動き	・暖冬のためコートの売上が伸び悩んでおり、必要な物しか購入しないという消費者行動がみられる。
	家電量販店 (予算担当)	販売量の動き	・暖冬の影響で暖房器具の売行きが伸びない。引きずられるように、白物家電も不調で前年割れが続いている。
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・自動車市場において新型車の投入が各メーカーとも相次ぎ、新型効果により新型車の売上は順調であるが、その他のモデルが変わらない車種に関しては販売がダウンしている。

		乗用車販売店 (統括)	それ以外	・新商品の発売や時期的なものもあり、これから上向いていくはずであったが、メーカーの火災により生産数が落ち、対応できない状況にある。
		住関連専門店 (営業担当)	来客数の動き	・今月は、学習機の販売期であるが前年度比の70%未満で推移し、消費者の買い控えがみられる。
		一般レストラン (店長)	競争相手の様子	・半径5キロ以内に競合店がオープンしたため、来客数が5%減少している。ランチタイムにその影響が顕著にみられる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・忘年会シーズンであるが、売上は悪く長距離の仕事も少ない。乗客の話からも景気の悪さを感じられる。
		設計事務所 (経営者)	販売量の動き	・建築業においては絶対量が少ない状況が続いている。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・消費者の購買意欲が、徐々に薄くなってきており、契約期間が長期に渡るようになってきている。また、競合社のダンピング競争がますます激しくなってきている。
	悪く なっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・暖冬とオーバーストアの影響で、子供服の売上が非常に悪い。構造不況の状態にあり、需給バランスが改善されない限り小売業は立ち行かない状況にある。
		一般小売店 [靴](経営者)	単価の動き	・商店街の中の様々な業種の店の話を聞いても、顧客の買い控えが強くみられる。
		その他専門店 [時計](経営者)	お客様の様子	・クリスマスプレゼントの買物が通年であれば徐々に増えてくるが、今年は23日に売上が伸びた程度で盛り上がりかけるクリスマスである。
		旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・暖冬のためスキー客が皆無になっていると同時に、秋口の台風、水害などの影響を受け受注が冷え込んでいる。
企業 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている			
	変わらない	化学工業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・先月と大きな変化はなく、生産量、出荷量ともに安定している。デフレ圧力に加え物流費・原燃料費等の高騰により利益が出にくい状況である。
		窯業・土石製品製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・大型受注の生産に着手し、生産量は高水準である。
		鉄鋼業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・工場操業は、フル操業状態が継続しており、景況感には変化がみられない。
		非鉄金属製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・台風・地震により一過性で需要が伸びた製品があるものの、先行き不透明な部分がある。
		建設業(営業担当)	取引先の様子	・デベロッパーにおける土地取得は上向いているが、事業計画における建設費の金額は依然として厳しい。
		通信業(営業企画担当)	受注量や販売量の動き	・法人向け通信サービスの受注量・販売量に大きな変化はなく、低価格商品へのシフトが続いている。伝送容量が大きくなる(いわゆるブロードバンド化)ほどには価格は伸びず、業界の収支は厳しいまま。
		通信業(社員)	受注価格や販売価格の動き	・事業計画目標額の達成に向けて、顧客へ受注の追加提案したが、価格競争では厳しいものがあり、受注まで至っていない。計画目標がクリアできない。年度末までの受注工程の完全実施と次年度向けの新規メニューを提案していく方針である。
		金融業(業界情報担当)	取引先の様子	・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を持続中だが、製品価格の値引き要請や原油高騰、樹脂原料価格の上昇などから収益面では厳しさが増している。設備投資は増加基調にある。
		金融業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・10月以降、荷物の動きが3割強減少している。これに伴い企業マインドも冷え込んでいる。
	やや悪く なっている	一般機械器具製造業(経営企画担当)	それ以外	・原材料が高騰し、会社の損益に大きな影響を与えている。
		電気機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・自動車・家電関連は変わらないものの、携帯関連の受注が落ち込んでいる。

		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は増加しているが、仕入材料の価格が上がっている。また受注価格の引下げを要求されている。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	取引先の様子	・発注先からの締め付けが非常に厳しくなっている。特に価格の抑制依頼や納期・数量に関するシビアな依頼が多くなっている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・自動車メーカー関連の製造業を除いては、一般的に売上高が不振である。特に公共工事関係が悪く、その影響を受けてその他のサービス業や販売業の売上高が前年を下回っている。
		コピーサービス業（管理担当）	取引先の様子	・得意先の自社内コピーによる外注費削減の影響を受けている。
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（支店長）	雇用形態の様子	・求人に本腰を入れるところが増え始めている。年度末に向け、人員薄に手を打つところが目立ってきたが、正社員を強化するところも増えてきている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が減少傾向にある。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新規事業創出などによる増員目的の求人が、補充型よりも上回っている。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・一般的に派遣需要は堅調であるが、大型の求人案件は全国と比較すると広島県は極めて少ない政令指定都市である。
		求人情報誌製作会社（担当）	雇用形態の様子	・雇用形態が正社員ではなく契約社員やパートなどにシフトしている。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人数は5か月連続で減少傾向である。一方で派遣、請負に関しては増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は前年同月と比べ増加したものの、内容は公共工事の受注を中心とした臨時的求人や年末年始の繁忙期対応のための欠員補充となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・積極的に求人改革を行っても効果が出ない。 ・求人があっても期間求人であり、安定した職につかない。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・自動車部品製造企業の業績はかなり良い。しかし、コアとなる人物以外は正社員としての雇用を増やす様子がない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・採用内定率が前年同期を下回り、学生は苦戦を強いられている。求人票の着信数も減少気味で、平成17年3月卒業者を対象とした企業の採用活動は一気に終盤を迎える気配をみせており、今後どの程度学生の採用内定数が伸びるかは全く不透明である。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（支社長）	周辺企業の様子	・一時期、景気の上向きを感じたが、円高や原油高のため地域経済が少し停滞しており、それにより採用の数も停滞している。
	悪くなっている			